

地方小都市における中山間地型まちづくり基本方針の検討  
 福島県田村市都路地域を事例として

地方都市 農村部 まちづくり  
 公民学連携 住民参加 地域資源

正会員 ○尾瀬敦裕 \* 同 清水亮 \*\*\*  
 同 木口彩 \* 同 清家剛 \*\*\*\*  
 同 高見亮介 \*\* 同 原裕介 \*\*\*\*  
 同 西村裕美 \*\* 同 田中大朗 \*\*\*\*

1 研究の背景と目的

本研究は、福島県田村市都路地域における今後のまちづくりの指針となるべき「まちづくり基本方針」の策定に向け、基礎的な調査と提案を行うことを目的としたものである。田村市と東京大学大学院空間計画研究室は、平成19年から共同で田村市の5つの旧町村の地域を対象に順次まちづくりの調査研究を行っており、今回で4年目となる。今年度は、対象地域を都路地域として調査を行った。

本調査では、歴史の中で蓄積されてきた都路地域の資源と、都路に住む人たちのつながりや地域のコミュニティなど、「ハード」「ソフト」双方の可能性を探ることを狙った。道路や施設といったハードの整備に加え、地域の暮らしを支える様々なサービスを充実させ、地域内での生活をより良くするにはソフトを適切に連携させていくことが必要である。「拡大・発展」ではなく、地域の「持続」がまちづくりにおける最も重要な課題となる中で、都路地域における持続的なまちづくりを貫くべき軸となるテーマと、取り組みの糸口を示すことが目的である。

2 都路地域の概要

田村市都路地域の総人口は平成17年の時点で3,097人、総世帯数は894世帯である。昭和30年代から昭和50年代にかけて大きく人口が減少しており、その後は一定の割合で減少している。産業の衰退に加え、高校や大学の入学に際して、船引町・郡山市・仙台市・東京方面などへの若者の流出が進んでいることが背景にあると考えられる。また高齢化も進んでおり、平成17年度時点で65歳以上が約1/3を占めている。

都路地域の主産業は農業であり、水稻を基幹作物として、養蚕、葉たばこ、畜産、野菜などを組み合わせた複合経営が営まれている。農地は狭いところにあり、田畑が混在している状況が多く、近年、養蚕、葉たばこ産業の衰退（平成16年に船引のタバコ工場撤退）や後継者の農家離れや従事者の高齢化等により、耕作放棄地が増大している。

3 空間構造と空間資源

旧都路村は明治22年に古道村と岩井沢村が合併した地域であり、現在も「古道」と「岩井沢」の2つの大字で構成されている。空間構造は、地域中央で国道288号と国道399号が交差しており、その交点を中心に地域の主要施設が集積し、都路の中心部になっている。中心部周辺には農地が散在し、田畑の混在がみられる。地域北部には、阿武隈高原中部県立自然公園区域でもある五十人山、行司ヶ滝等が含まれる地域であり、森林が全面的に分布した山岳地帯になっている。一方、地域南部は、国道399号、県道・

市道沿いに農用地が多く散在しており、田畑の混在がみられる。都路地域内では古道川や、山口川、南川をはじめとする河川が古道地区で全て合流しており、阿武隈山系からの湧水が河川の水源となっている。また、小規模な扇状地が数多くみられ、山間部の森林では林業が営まれており、緩傾斜地は畑として開拓されている。水田は水系が集束する谷戸、底地帯でみられ、水系に応じて開拓された農耕地を基盤に集落が形成されている。畑作・稲作に加え、畜産も行われている集落もあり、これらの混在が景観的な特徴となっている。また森林の手入れが行き届いていることもあり、四季折々に変化する山並みと集落によって形成される美しい景観が続いている。

以上の様な点を空間資源として挙げることができるが、耕作放棄地の増加や、空き家の増加によってその調和が失われつつある。その他にも、中心部には商業施設の一定の集積があるものの、人口減少や郊外型ショッピングセンターの開業などが影響し、商店の空洞化が進んでいる。また、キャンプ場やアスレチック機能を備えているグリーンパーク都路や、廃校になった大久保小学校などの公共施設があるものの、上手く活用されていないのが現状である。

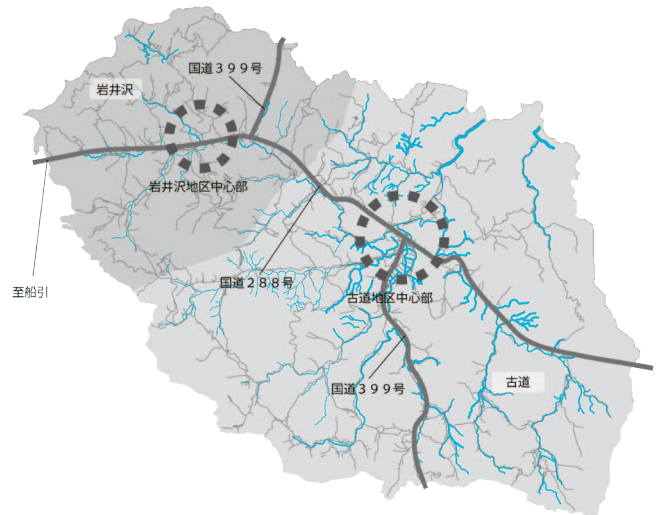


図1 空間構造図

4 住民の意識

文献調査や現地調査と並行して、ヒアリング調査を行った。今回のヒアリング調査では、都路のまちづくり、商業、農業において中心的な役割を担う人物の他、まちづくりに関心を持つ一般住民の方も対象とした。多くの人が、豊かな自然や人のつながりなどが都路の魅力であるという意見を挙げるなか、行司ヶ滝、五十人山などの観光資源、

グリーンパークなどの大規模な施設を挙げる人は少なかった。しかし、それぞれの活動を集積させる機会・場所が現時点では存在せず、上手くつながっていない。また社交的な人物が多く、東京大学の学生・スタッフに、まちづくりに対する熱い思いを語ってくれる人も多かった。こうした団体・人物及びそのつながりを構築することも、都路の提案の一つとして考える必要がある。その他に、このまま放っておくと通常的生活さえもできなくなるという危機感を感じている人も多かった。都路内には買い物できる商店に限られており、品数も少ない。そしてバス・鉄道などの公共交通は本数が少なく不便であり、自動車がないと生活ができない状況であることから、自分自身が自動車を運転できなくなったときに暮らしていけないのではという思いが大きな理由の一つである。少なくとも都路内である程度の生活が完結できるようにする提案を求める傾向にあった。

### 5 課題の整理からまちづくり提案へ

地域住民やまちづくり関係者と共に都路の資源や課題を探り、具体的な提案・実践へと繋げる目的で、ワークショップを5回実施した。

第1回ワークショップでは、都路住民の内側から見た都路の姿と、初めて訪れた学生が感じた外側からの印象について意見交換した上で、都路の強みと弱みについて整理した。ヒアリング調査と同様、強みとして「人のつながり・優しさ」「自然の豊かさ」が、弱みとして「交通の不便さ」「店舗の少なさ」「職のなさ」が挙げられた。第2回ワークショップでは、生活・産業・地域資源の3つの視点から、都路の強みを活かし、弱みを改善し、まちをよりよくするアイデアを出し合った。国道が2本も通っているものの、トイレや休憩所といったスペースが周辺にないことから、道の駅をつくるというアイデアが共通して出された。またそれぞれのアイデアが関係し合っていることが特徴的であった。第3回ワークショップでは、今までの調査やワークショップで生まれたまちづくりアイデアを実際に都路の土地でどのように展開していくかを考えた。各班共通して、国道沿いに道の駅を設置するという意見が挙がった。また、公共施設が並ぶ古道地区の道沿いに商業施設を集約させ、歩きながら買い物を楽しめる場所にするというアイデアも共有されていた。外部需要と内部需要を満たすための場所を分け、それらと都路全域をつなぐために既存の診療所バスやスクールバスを活用するという方向でまとまった。第4、5回都路ワークショップは、これまでの調査・ワークショップ結果をもとに学生が具体化したまちづくり提案を実践に移す際の体制や課題について、議論を行った。それぞれの提案ごとにやるべきこととスケジュールを整理することで、実践に向けてのモチベーションを高めることができたと言える。

### 6 まとめと今後の展望

以上、調査は文献調査、現地調査、ヒアリング調査、ワークショップを10ヶ月間に渡って行ったものである。

- \* 東京大学大学院新領域創成科学研究科 修士課程
- \*\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士課程
- \*\*\* 東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授
- \*\*\*\* 田村地域デザインセンター

調査の中で浮かび上がった住民のまちづくりへの意識の高さや人々の密接な関係性を活かしながら、分野や世代の枠を超えた人々がそれぞれの知恵や知識を持ち寄り、共有し、相互作用させることによって、都路が持つ地域資源をさらなる強みへと発展させていく。これが都路の持続的なまちづくりに求められる姿だと考えた。

都路のまちづくり基本方針として『人のつながりを活かし、新たな「つながり」を展開させる都路のまちづくり』を掲げ、間・技・外・点・未来という5つのサブテーマを設定した。これらはそれぞれ、交通システムの再編、産業分野間の連携、外需の獲得、活動拠点の創出、次世代への継承を意味している。更に、調査から明らかとなった地域資源と課題を踏まえ、具体的な7つのまちづくり提案を作成した。その関係性をまとめたものが下記の図2である。この基本方針と提案をもとに、今後実現に向けたいくつかのまちづくり実験を公民学連携で行っていく予定である。

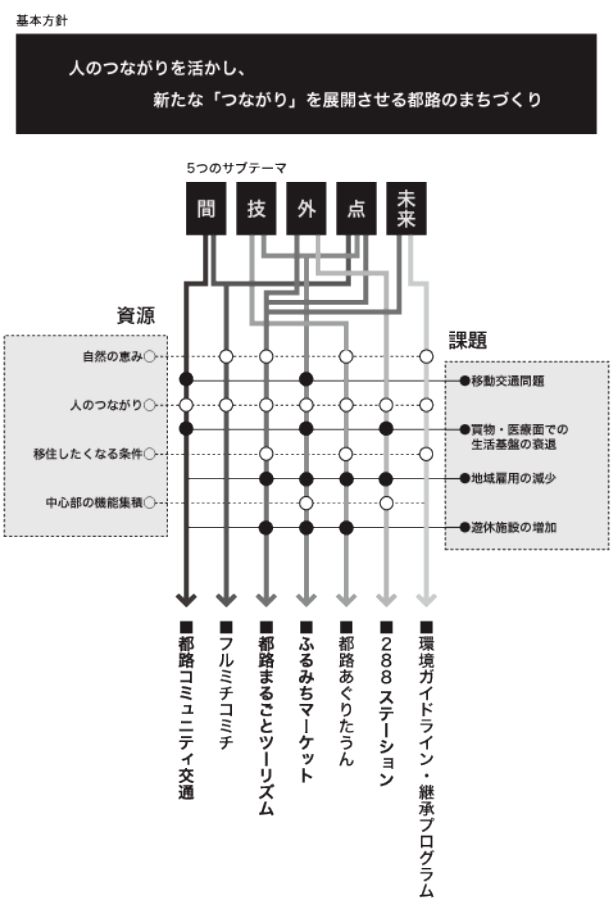


図2 資源、課題を踏まえた基本方針と提案の関係図

#### 参考文献

福角朋香他「地方小都市における地域資源の活用に関する調査 福島県田村市大越地域のまちづくり」学術講演梗概集 E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育 2010, 477-478, 2010-07-20

#### 最後に

東日本大震災で被災された皆様にご心からお見舞い申し上げますと共に、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

- \*Master Course, Graduate School of Frontier Sciences, The Univ. of Tokyo
- \*\*Master Course, Graduate School of Faculty of Engineering, The Univ. of Tokyo
- \*\*\*Associate Prof., Graduate School of Frontier Sciences, The Univ. of Tokyo
- \*\*\*\*Urban Design Center Tamura [UDCT]